

2021年6月4日

内閣総理大臣菅義偉様 文部科学大臣萩生田光一様

国際婦人年連絡会

世話人 大倉多美子 橋本紀子 前田佳子

**中学歴史教科書の「従軍慰安婦」記述の史実を捻じ曲げ  
「慰安婦」記述に変更する閣議決定に抗議します。**

国際婦人年連絡会は、全国の女性団体 34 団体が結集し、女性の地位向上・ジェンダー平等の実現をめざし活動している NGO 団体です。

政府は4月27日、これまで中学校歴史教科書に記述された「従軍慰安婦」の用語を、「軍により強制連行されたイメージなど誤解を招く恐れがある」として、「慰安婦」とするのが適切である、とする閣議決定をしました。

この教科書の検定を行った文科省教科書課は「検定審議会の学術的・専門的な審議の結果、検定意見は付さなかった」と回答し、加藤官房長官も3月31日の記者会見で「河野談話を継承する日本政府の立場は現時点でも変わるものではない」と答弁した矢先のことです。

菅義偉首相は、5月10日の衆院予算委員会で「教科書の検定基準は、閣議決定、政府の統一見解を記述すること」との主張を繰り返し、検定の見直しまで言及しています。

このような歴史事実を政府が閣議決定で捻じ曲げる行為は、1993年の河野洋平官房長官談話（河野談話）が「当時の軍の関与の下に、多数の女性の名誉と尊厳を深く傷つけ...いわゆる従軍慰安婦として数多の苦痛を経験され...心からお詫びと反省・・・歴史研究・歴史教育を通して、このような問題を永く記憶にとどめ、同じ過ちを決して繰り返さないよう固い決意を改めて表明する」とした政府の方針と矛盾するものであり、認められません。

河野談話により1997年には中学の歴史教科書全てに「従軍慰安婦」が記述されましたが、その後「新しい歴史教科書をつくる会」等の攻撃が強まり、教科書から記述は消えました。

本年度から使用する中学校歴史教科書にある「従軍慰安婦」の記述を日本維新の会の馬場幹事長から出された質問主意書で「不適切」と問題視し、ここに至ったものです。

我が国が過去に犯したアジアへの侵略行為は、直視しなくてはならない歴史的事実であり、子どもたちに伝えていかなければならないと考えます。今後アジアで平和的に生きていく日本の前途にかかわる重要な立場です。

合わせて、安倍政権時から、日本の前途を決定する安全保障条約・集団的自衛権行使容認・菅総理による日本学術会議会員6名の任命拒否問題など、立法府である国会を無視して、「閣議決定」で秘密裏に大事な案件が決定され国民に押し付ける政府の政権運営の在り方は、立憲主義に反し断じて許すことはできません。強く抗議します。 以上